

令和 7 年度行政評価 《事業評価調書》

事業名	大気汚染調査費				担当	生活環境部環境課			
事業概要	大気汚染防止法に基づき、地域における大気汚染に関する緊急時の処置や、大気環境や発生源の状況及び高濃度地域の把握、汚染防止策の効果の把握等を行うとともに、全国的な汚染動向、汚染に係る経年変化等を把握し、大気汚染防止対策の基礎資料とする。								
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)		
R6決算	5,657	千円	2.0	人	11,478	千円	17,135	千円	
R7予算	4,644	千円	2.0	人	11,478	千円	16,122	千円	
目標	大気的环境基準値超過件数 0 件を維持する。								
実績・効果	大気の常時監視を継続した結果、R 1 ～R 6 における大気的环境基準値超過件数は 0 件であり、良好な大気環境を維持した。								
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・本市は、大気汚染防止法に基づき、大気の汚染の常時監視を行わなければならない政令市に指定されている。				
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・大気汚染防止法第22条の規定に基づく大気 of 汚染の状況の常時監視に関する事務の処理基準に基づき実施している。				
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・環境基準値超過件数 0 件を維持している。				
	効率性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☒ どちらかという和低い ☐ 低い			・大気の常時監視に必要な測定機器の点検については専門的な知識及び技術が必要であり、専任の職員の確保が困難である。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】									
大気汚染防止法に基づき、大気 of 汚染の状況の常時監視を継続する。									

事業名		担当					
事業概要							
事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	千円	人	千円	0	千円		
R7予算	千円	人	千円	0	千円		
目標							
実績・効果							
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等			
	必要性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
	妥当性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
	有効性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
	効率性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
評価の結果を踏まえた今後の方向性							
【今後の方向性の説明】							

令和 7 年度行政評価《事業評価調書》

事業名			ゼロカーボン推進事業費			担当		生活環境部環境課		
事業概要		脱炭素社会の実現に向けて、事業者及び市民自らがゼロカーボンに向けた取組を実施できるよう支援するとともに、省エネルギー化を推進することにより、市域全体の温室効果ガス排出量を削減しゼロカーボンの達成に寄与する。								
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)		
R6決算		7,250	千円	3.0	人	17,217	千円	24,467	千円	
R7予算		6,661	千円	3.0	人	17,217	千円	23,878	千円	
目標		市域全体の温室効果ガス排出量を削減する。								
実績・効果		<事業者向け事業>セミナーの開催（2回）、省エネ診断の補助（6件） <市民向け事業>リーフレットによる周知活動（29,360部新聞折込）、間伐材活用推進のための木工品制作教室、小樽おうちの省エネコンテスト2024 本市がゼロカーボンの取組を前向きに推進していることをPRしたほか、市民・事業者の意識高揚・行動変容を図り、ゼロカーボン達成に向けて前進した。								
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				市の重要課題（ゼロカーボン）に対応している。				
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				より多くの市民・事業者に参加してもらえるよう、事業の質の向上に向けた工夫、事業内容や実施方法の見直し、改善が必要である。				
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				対象者の満足度が高く、また、脱炭素社会の実現への貢献度が高い。				
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				財源の確保はできているが、費用対効果については見直し、改善が必要である。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続				
【今後の方向性の説明】										
脱炭素社会の実現に向けては、市民・事業者の意識高揚・行動変容が不可欠であることから、継続する。										

事業名	住宅エコリフォーム助成事業				担当	建設部建築住宅課			
事業概要	住宅の断熱改修や省エネ型設備機器など省エネ改修を行った場合、その工事費用の一部を助成する。								
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)		
R6決算	4,463	千円	0.18	人	1,033	千円	5,496	千円	
R7予算	8,500	千円	0.2	人	1,148	千円	9,648	千円	
目標	環境負荷が少なく、かつ、快適な住環境の創出の促進を図るとともに、市内経済の活性化に資することを目的とする。								
実績・効果	助成件数及び助成額 令和6年度：9件 4,463千円 令和7年度：8件 3,228千円（※9月末時点） 市民の経済的負担軽減に寄与した。								
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・市長公約に該当する事業である。				
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・事業内容や実施方法の見直し、改善を行っている。				
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・ニーズを過不足なく充足しているとは言えないが、国の補助要綱の範囲内で実施している。				
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・国の交付金及び道の補助金がある。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】 ゼロカーボンシティ小樽市を表明し、脱炭素化を進める必要があることから、継続して事業を進める。									